

平成 25 年度
事務事業の点検及び評価報告書

平成 26 年 9 月
恩納村教育委員会

1 はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条)

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第27条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年作成し公表しておりますが、教育委員会としましては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後、村民に公表するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成20年4月1日施行）

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は5名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。教育委員会の代表者であり教育委員会議の主宰者である教育委員長は委員の互選により選出されます。また、教育公務員であり教育委員会事務執行責任者である教育長は教育委員の中から任命されます。教育委員長と教育長は兼任することはできないこととなっています。

通常の業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者の中から、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は4年となっています。平成25年度は、外間委員が委員長に選任され、大城委員が委員長職務代理者に選任されました。

平成25年度の教育委員は次のとおりです。

| 役職 | 氏名 | 任期 | 教育委員としての経歴 | | 備考 |
|-----|------|-----------------------|------------|-------|------------------|
| | | | 当初就任 | 勤続年数 | |
| 委員長 | 外間毅 | 平成25年3月18日～平成27年3月31日 | 平成25年 | 1期2年 | 委員長1年(宜志富委員残任期間) |
| 委員 | 大城肇 | 平成25年8月1日～平成29年7月31日 | 平成13年 | 2期5年 | 委員長職務代理者 |
| 委員 | 島袋正重 | 平成25年5月1日～平成29年4月30日 | 平成13年 | 4期13年 | |
| 委員 | 宮平千佳 | 平成22年4月1日～平成26年3月31日 | 平成22年 | 1期4年 | 任期満了 |
| 教育長 | 石川哲夫 | 平成25年4月1日～平成29年3月31日 | 平成21年 | 2期5年 | |

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜臨時会を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成25年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

| 会議の名称 | 日時 | 場所 | 出席委員 | 案件等 |
|-------|----------------|---------|------|--|
| 4月臨時会 | 4月1日(月) 8:30 | 役場3階会議室 | 5人 | 1. 議案第1号 教育長の任命の件 |
| 4月定例会 | 4月22日(月) 10:00 | 役場3階会議室 | 5人 | 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第2号 恩納村立学校評議員の委嘱について 4. 議案第3号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 5. 議案第4号 社会教育主事の任命について 6. 議案第5号 教育委員長の選任について 7. その他の協議事項 ・学校教育における指導の努力点について ・平成25年度県立総合教育センターの事業概要について ・危機管理マニュアルの活用について ・平成25年度恩納村教育委員会学校計画訪問の概要について ・恩納村立中学校統合の見通し(案)について |

| 会議の名称 | 日 時 | 場 所 | 出席委員 | 案件等 |
|-------|----------------|---------|------|--|
| 5月定例会 | 5月21日(火) 10:00 | 役場3階会議室 | 4人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県教育庁による体罰実態調査について ・ 適正な部活動のあり方について ・ 台湾の交流視察報告について ・ 中学校統合に係る今帰仁村視察研修について |
| 6月定例会 | 6月24日(月) 10:00 | 役場3階会議室 | 5人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第6号 恩納村子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱の制定について 4. 議案第7号 恩納村子ども読書活動推進計画策定委員の委嘱について 5. 議案第8号 教育委員長の選任について 6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の情報化コーディネーター派遣計画(案)について ・ 恩納村人事行政プロジェクトについて ・ 教育委員会の具体的な取組事項と評価について ・ 学校統合に関する委員会視察について |
| 7月臨時会 | 7月10日(水) 10:00 | 役場3階会議室 | 4人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第9号 平成25年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について 2. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度地域懇談会教育委員会割り当てについて ・ 校長教頭研修会について |
| 7月定例会 | 7月22日(月) 10:00 | 役場3階会議室 | 4人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第10号 恩納村教育委員会事務事業点検評価外部評価委員会の委員の委嘱について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 村内各中学校の夏休みの陸上練習の取り組みについて ・ 夏休みにおける臨時的任用職員の扱いについて |

| 会議の名称 | 日 時 | 場 所 | 出席委員 | 案件等 |
|--------|-----------------|---------|------|---|
| 8月定例会 | 8月19日(月) 14:00 | 役場3階会議室 | 4人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第11号 恩納村幼稚教育振興委員会設置要綱の制定について 4. 議案第12号 統合中学校建設候補地選定委員会設置要綱の制定について 5. 議案第13号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属機関設置条例の改正について ・ 学習状況調査の結果について ・ 地域学習塾の各地域の取り組みについて ・ 子ども科学教室の参加人数について |
| 9月定例会 | 9月24日(金) 10:00 | 役場3階会議室 | 5人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第14号 恩納村文化情報センター(図書館)準備室運営要領の制定について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 点検評価報告書に関する答申書について ・ 全国学力学習状況調査について |
| 10月定例会 | 10月18日(金) 10:00 | 役場3階会議室 | 5人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 私立幼稚園連合会からの陳情書について ・ 村内小学校のいじめについて ・ 石狩交流事業の日程について ・ 秋田の教育フォーラムに関する報告について |

| 会議の名称 | 日 時 | 場 所 | 出席委員 | 案件等 |
|--------|-----------------|---------|------|---|
| 11月定例会 | 11月21日(木) | 役場3階会議室 | 5人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第15号 恩納村幼児教育振興審議会設置要綱に基づく委員の委嘱の件 4. 議案第16号 谷茶多目的交流施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の件 5. 議案第17号 恩納村学校支援地域本部設置要綱の制定の件 6. 議案第18号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱の件 6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・公立小中学校の校務改善検討委員会について ・村内小中学校のいじめの経過報告について |
| 12月定例会 | 12月20日(金) 10:00 | 役場3階会議室 | 4人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議の概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第19号 統合中学校建設候補地選定委員会の委員の委嘱の件 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・公立小中学校の校務の改善について ・道路交通法改正について ・教育実習の取扱いについて ・県到達度テストの結果について |
| 1月定例会 | 1月21日(火) 10:00 | 役場3階会議室 | 5人 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第20号 恩納村いじめ防止条例の提出について 4. 議案第21号 恩納村教育の日表彰者の承認について 5. 議案第22号 恩納村社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例について 6. 議案第23号 瀬良垣多目的交流施設の指定管理者の指定について 7. 議案第24号 太田多目的交流施設の指定管理者の指定について 8. 議案第25号 恩納村人材育成のための激励金支給要綱の一部を改正する要綱について 9. 議案第26号 恩納村体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について |

| 会議の名称 | 日 時 | 場 所 | 出席委員 | 案件等 |
|-------|----------------|---------|------|---|
| | | | | 10. その他の協議事項 ・ 県到達度テストの結果について ・ 次年度の事業について |
| 2月定例会 | 2月21日(金) 14:00 | 役場3階会議室 | 5人 | 1. 前回概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第27号 恩納村学校管理規則の一部を改正する規則について 4. 議案第28号 名桜大学と恩納村教育委員会との連携に関する協定書の一部を変更する協定書について 5. 議案第29号 恩納村遠距離通学補助金交付要綱の改正について 6. 議案第30号 恩納村文化財保護審議会委員の委嘱について 7. 議案第31号 恩納村博物館運営協議会委員の委嘱について 8. 議案第32号 平成26年度恩納村立幼稚園定期人事異動の内示(案)の承認について 9. 議案第33号 平成26年度公立学校管理職の定期人事異動内示(案)の承認について 10. 議案第34号 平成26年度教育委員会職員に係る人事異動内示(案)の承認について 11. 議案第35号 特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 12. 議案第36号 喜瀬武原多目的ホール施設の指定管理者の指定について 13. その他の協議事項 ・ 学校ゆいまーる活動制度の協定書について ・ 教育委員の今後の日程について |
| 3月臨時会 | 3月4日(火) 17:00 | 役場3階会議室 | 3人 | 1. 議案第37号 公立学校教諭等定期人事異動の内示承認の件について 2. 議案第38号 平成26年度恩納村一般会計に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて 3. 議案第39号 平成25年度恩納村一般会計補正予算(第7号)に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて 4. その他の協議事項 |

| 会議の名称 | 日 時 | 場 所 | 出席委員 | 案件等 |
|-------|----------------|---------|------|---|
| 3月定例会 | 3月20日(木) 14:00 | 役場3階会議室 | 5人 | 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第40号 恩納村要保護及び準要保護児童生徒認定要綱の一部改正について 4. 議案第41号 恩納村心の教室相談員の委嘱について 5. 議案第42号 平成26年度恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 6. 議案第43号 恩納村「アジア圏内(文化・交流)体験プログラム」派遣事業実施要項の制定について 7. 議案第44号 社会教育委員の委嘱について 8. 議案第45号 恩納村博物館非常勤館長の任命について 9. 議案第46号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 10. 議案第47号 恩納村社会教育指導員の委嘱について 11. 議案第48号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について 12. 議案第49号 恩納村教育相談員の委嘱について 13. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度高校入試一次試験の結果について ・平成26年度教職員辞令交付式について ・赤間ボールパークにおける女子硬式野球大会について |

なお、教育委員会で審議された案件を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

| 条例関係 | 規則・規定・要綱等 | 人事関係 | その他 | 合計 |
|------|-----------|------|-----|-----|
| 5件 | 10件 | 26件 | 8件 | 49件 |

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成25年度における主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

| 期 日 | 場 所 | 行事等の名称 | 備 考 |
|-----------|--|---------------------|---------------------------|
| 平成25年4月1日 | 役場1・2階会議室・1階会議室 | 平成25年度職員辞令交付式 | 外間委員長・石川教育長 |
| 4月2日 | 総合保健福祉センター | 平成25年度教職員辞令交付式 | 全委員 |
| 4月3日 | 役場1階会議室 | 教育委員会課名変更等による辞令交付 | 石川教育長 |
| 4月4日 | 名桜大学 | 入学式 | 石川教育長 |
| 4月5日 | コミュニティーセンター | 春の交通安全運動出発式 | 石川教育長 |
| 4月8日 | 石川高校 | 入学式 | 石川教育長 |
| 4月9日 | 安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館 | 小中学校入学式 | 島袋委員 石川教育長 |
| 4月10日 | 安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園 | 入園式 | 石川教育長 島袋委員 |
| 5月9日～10日 | 石垣市 | 沖縄県教育委員会委員連合会研修会、総会 | 外間委員長、石川教育長、宮平委員 |
| 5月15日 | 仲泊幼小中学校 | 学校訪問 | 全委員 |
| 5月17日 | 役場前 | 夜間街頭指導出発式 | 全委員 |
| 5月20日 | 役場2階会議室 | 学力向上推進協議会総会 | 島袋委員、石川教育長 |
| 5月29日 | 安富祖幼小中学校 | 学校訪問 | 全委員 |
| 5月30日 | 喜瀬武原小中学校 | 学校訪問 | 全委員 |
| 5月31日 | 恩納幼小中学校 | 学校訪問 | 全委員 |
| 6月3日～7日 | あいさつ運動 | 村内各校区 | 全委員 |
| 6月4日 | 山田幼小中学校 | 学校訪問 | 全委員 |

| | | | |
|-----------|--|--------------------------|--|
| 6月14日 | 恩納小中学校 | 校務研究会 | 全委員 |
| 6月26日 | 国頭村、今帰仁村教育委員会 | 中学校統合視察研修 | 全委員 |
| 7月26日 | OIST(大学院大学) | 校長・教頭研修会 | 全委員 |
| 7月28日 | コミュニティーセンター | 幼稚園児お話大会 | 全委員 |
| 7月30日 | ゆうなホール | 少年の主張意見発表会 | 全委員 |
| 8月1日 | 役場2階会議室 | 新教育委員辞令交付式 | 外間委員長 |
| 8月23日 | 読谷村陸上競技場 | 村立中学校陸上競技大会 | 外間委員長、大城委員、石川教育長 |
| 9月9日 | 恩納小中学校 | 特別授業研修(川嶋環先生) | 全委員 |
| 9月19日 | OIST(大学院大学) | 村立中学校英語ストーリースピーチコンテスト | 全委員 |
| 10月8日 | 役場2階会議室 | 未来塾開校式 | 外間委員長 |
| 10月13日 | 安富祖幼小中学校 喜瀬武原幼小中学校 恩納幼小中学校 仲泊幼小中学校 山田幼小中学校 | 運動会 | 石川教育長 外間委員 島袋委員、石川教育長 大城委員 宮平委員 |
| 10月21日 | ゆうなホール | 石狩市・恩納村友好都市締結式 | 全委員 |
| 11月1日 | 山田小中学校 | ICT指定研究校活用報告会(授業参観) | 全委員 |
| 12月19日 | 村職員(幼稚園教諭)採用試験面接 | 役場2階会議室 | 外間委員長 |
| 12月24日 | 山田中学校 | 大学院大学教授による科学授業視察 | 外間委員長 |
| 平成26年1月4日 | コミュニティーセンター | 成人式 | 全委員 |
| 1月26日 | 安富祖小中学校 喜瀬武原小中学校 恩納小中学校 仲泊小中学校 山田小中学校 | 学習発表会 | 石川教育長 外間委員長 島袋委員、石川教育長 大城委員 宮平委員 |
| 1月27日 | 県庁 | 市町村教育委員会研修 | 外間委員長 |
| 2月2日 | ゆうなホール | 村学力向上実践報告会「学びをたしかめつなぐ集い」 | 全委員 |
| 2月15日 | 西原東中学校 | 中頭地区学力向上実践推進大会 | 全委員 |
| 2月18日 | ゆうなホール | 教育講演会(内田玲子) | 全委員 |
| 3月4日 | 役場2階会議室 | 未来塾閉校式 | 全委員 |

| | | | |
|-------|--|--------------------|--|
| 3月9日 | 安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館 | 中学校卒業式(喜瀬武原小中卒業式) | 石川教育長 外間委員長 島袋委員 大城委員 宮平委員 |
| 3月19日 | 安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園 | 修了式 | 大城委員 宮平委員 外間委員長 島袋委員 石川教育長 |
| 3月20日 | 安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小学校体育館 | 小学校卒業式 | 宮平委員 外間委員長 石川教育長 大城委員 |
| 3月24日 | 恩納村役場 | 恩納村情報センター開館に向けた講演会 | 外間委員長 |

(4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。

平成25年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

| 日 時 | 場 所 | 研修会等の名称 | 備 考 |
|-----------|---------|--------------------------|-----------------------|
| 5月9日から10日 | 石垣市 | 沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 | 外間委員長、石川教育長、宮平委員 |
| 6月7日 | 宜野湾市 | 平成25年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修会 | 外間委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員 |
| 7月12日 | 中頭教育事務所 | 市町村教育委員会新任教育委員研修会 | 外間委員長 |
| 7月22日 | 宇加地公民館 | 地域教育懇談会 | 島袋委員 |
| 7月23日 | 瀬良垣公民館 | 地域教育懇談会 | 島袋委員 |
| 7月23日 | 真栄田公民館 | 地域教育懇談会 | 外間委員 |
| 7月25日 | 恩納公民館 | 地域教育懇談会 | 島袋委員 |
| 7月25日 | 安富祖公民館 | 地域教育懇談会 | 外間委員 |
| 10月4日 | 那覇市民会館 | 沖縄県市町村教育委員連合会研修会 | 大城委員 |
| 1月27日 | 沖縄県庁 | 沖縄県市町村教育委員会連合会研修会 | 外間委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員 |
| 2月7日 | 宜野湾市 | 平成25年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修会 | 外間委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員 |

3 事務の点検評価について

平成 25 年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取り組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目としました。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取り組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは 1 年遅れになることがありますが、この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとします。

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成 25 年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取り組み | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------|-------------------------------------|--|--------------------------------|--|--|----|------------|
| 教育委員会研修事業 | 各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。 | 教育委員会における各事業への積極的な関わりや自主研修等の計画及び実施を検討する。 | 教育委員会事務局と連携を図り、日程調整を早い段階から進めた。 | 県市町村教育委員会連合会の研修会、中頭市町村教育委員会連合会の研修会への参加、教育講演会、学校訪問、地域懇談会等への参加、他村の統合中学校を視察することにより教育に関する見識を深めることができた。 | 沖縄県、中頭地区等主催の研修会への出席は、積極的に行っているが、村単独での研修会等の計画を充実させ、実施する必要がある。 | B | ① 現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組み | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|------------|--|--|---|--|---|----|-----------|
| 教職員友の会補助事業 | 教員志望者に対し、教員採用試験に関する講義や演習を実施し、受験に関する講話を行う。 | 教員採用選考試験民間対策塾の情報収集をする。 | 効率的な学習内容の精選と1次・2次同時対策を実施した。 | 合格者の話を取り入れた講話を実施した。4回の学習会に6名が参加した。小学校1名合格。 | 周知方法の変更「メールや電話による周知方法の変更」と2次対策方法を検討する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 学校事務職員研修事業 | 学校事務職員の事務能力の向上及び効率化を図るため、毎週水曜日の午前中、拠点校に集って給与、服務、文書等の取り扱いについて共通理解と点検を行う。 | 村雇用職員の勤務条件や職務に専念する義務の免除の特例等についての共通理解をする。 | 必要に応じて、教育委員会事務局との連携を図った。 | 定例研究会にて、教職員の職務に専念する義務免除のあり方や村費の事務処理についての共通確認を行い、適正な事務処理が出来た。 | 教職員の公用車使用についての事務処理方法についての共通理解が必要である。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 学校評議員設置事業 | 地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置する。 | 学力向上や部活動のあり方についての意見を求める。 | 各学校とも学校経営全般について情報を提供し、学校課題についての共通理解を図った。 | 学校評議員との意見交換で、学校経営の現状を説明し、課題について共有し、改善に努めた。 | 学校評議員を効果的に活用するためマネジメントサイクルの確立に努める。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 校長会・教頭会 | 教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換を行い、課題を明確にし、教育行政に反映させる。 | 教育課程の「質」の確保についての周知を図る。にぬふぁ星メソットの周知を図る。 | 各学校の計画訪問や校内研修において、授業における教育課程の質の確保について指導・助言した。 | 法律改正等における各種施策について周知が図られた。各学校の課題について共通理解するとともに特色ある学校づくりを推進することができた。 | 沖縄県教育委員会校務改善委員会の提案による教育課程における学校行事等の精選が課題となっている。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組み | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------------|--|--|---|---|---|----|-----------|
| 教育相談事業 | 配慮を要する幼児児童生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。 | 過卒生に対する教育相談を実施する。 | 過卒生の情報収集と外部機関との連携を図った。 | SSWが配置されことで、学校で問題が起こった場合、各機関が連携して解決に当ることが出来た。 SSW(スクールソーシャルワーカー)とは ・児童生徒の話に耳を傾け、一緒に活動し、親と子又は学校との間に立って、気持ちの代弁、調整及び仲介等を行い、子どもを個人として尊重し、サポートを行っています。 | 心の教室相談員やSSW、村相談員の役割等、教育相談体制をどのように位置づけるか。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 教育委員会学校計画訪問 | 村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。 | 今後の教育活動に資する指導助言を行い、学校と共に村の教育について考える場を設定する。 | 学校説明会における意見交換や全体会での指導助言を行った。 | 学校教育目標具現化のための進捗状況の掌握が出来た。各校の説明が丁寧であった。服務に関する諸帳簿の整理は確実に行われている。 | 週案の作成及び活用に大きな課題があり、学校長及び教育委員会からの指導助言を行い改善を図る。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 中学生リーダー研修 | 生徒会に係る課題等を協議することにより生徒会活動の活性化と企画力、発表力、表現力、協調性を育成する。 | テーマを設定し、本村のリーダーとして充実した研修会にする。 | 中学生フォーラムから中学生リーダー研修会に事業を変更し、2年目を迎えることから、事業の成果についての検証が難しく、継続した取り組みをした。 | 各学校の生徒会代表が一同に会し、自校の課題について掘り下げ、改善に向けて5校の生徒の意見を吸い上げ、話し合う充実した研修会となった。 | 研修会での議論の結果を各学校でどのように実践していくか。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組み | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|----------|--|--|---|---|--|----|-----------|
| 奨学資金貸与事業 | 経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。 | 増加傾向にある奨学金申込者に対し、引き続き募集枠の改善を行い、人材育成の目的を達成するとともに経済的理由による進学断念の状況が生じないように対応していくことと徴収事務の強化（納入通知書の複数回送付、送金システムの案内、連帯保証人への通知等）を行い、長期未納者への対応を講じていきたい。 | 貸与については、申込者全員に貸与ができた。収納事務については支払い機会（納付書の発送回数増、繰上償還の相談、納入金額の相談等）を増やした結果、貸付額以上の収入の確保ができた。 | 奨学金申込者全員に対し貸与を行うことができた。（県内16名・県外11名）貸与額は9,420千円で徴収額は12,610千円、寄付金2,500千円で収入合計は、15,110千円となり5,690千円の収入増となりました。 | 経済的理由による進学断念の状況が生じないように申込者全員へ貸与ができるよう対応していくことと長期未納者への状況に応じた対応を講じていきたい。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 職場体験学習事業 | 村内5校の中学2年生を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。 | キャリア教育における職場体験学習の位置づけについて理解を図る。 体験先事業所の事前調整が教育委員会主体であるため、担当職員の主体性が薄くなっている。 | 各学校担当者の資質の向上を図るための研修会を実施した。 | 学校によって取組みに差があるが、独自で事前研修会を持ち、充実した職場体験学習が実施された。 | 受け入れ人数の限定により、希望事業所と派遣事業所が異なり、意欲が減退する生徒への配慮を行うことや担当教諭の主体性を持たせる。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|--------------------|---|--|---|---|--|----|-----------|
| 幼稚園教諭研修会 | 村内5幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。 | 各園とも、一人体制のため、村外での研修は限定的となる。長期休業中の計画を検討。 | 研修会へ参加できるよう担任外教諭を配置し、研修の体制整備を図った。 | 幼稚園教諭が各種研修会へ積極的に参加した。 | 新規採用者・10年経験者に対する研修会の実施と園経営に対する支援をする。 園運営に関する研修会を実施する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 幼稚園の絵本整備 | 絵本に親しむ幼児を育成するため、図書備品の拡充を図る。 | 絵本についての活用実績を掌握する。 | 学校図書館司書との連携を図れるようにした。 | 絵本に自ら親しむ幼児の姿があった。保護者が読み聞かせを行っている園が増えた。 | 子どもの読書活動推進計画との関連における家庭読書の推進。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業 | 幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。 | 各幼稚園での備品及び遊具等の現状確認を行い、修繕及び買い替え等を検討し、整備状況を更に向上させたい。 | 遊具等の修繕や備品要望書を事前に提出してもらい必要度の高い順に整備をした。 | 各幼稚園で必要な備品整備を行なったことにより保育環境の充実が図られた。 | 各幼稚園の遊具が経年劣化による修繕が頻繁なため補助事業等を活用した遊具整備を進める | A | ①現状の内容で継続 |
| 幼稚園教育の推進 | 幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある保育活動を実施する。 | 各園における特色ある教育活動の支援をする。 | 幼稚園相互の連携と小中学校との連携を図る。 | 幼稚園教育の方針について検討する幼児教育振興委員会が設置された。 | 幼児教育振興会議における新たな振興策の提案が必要である。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 教育振興備品整備事業 | 学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。 | 前年度と同様に備品購入の監査を実施し、今後も計画的な備品整備を行い、各学校でのICT整備も推進する。 | 備品が適切に購入され、活用しているか監査を実施した。 ICT整備については喜瀬武原校を整備した。 | ICT活用において教師方が情報を共有し、わかりやすい授業の定着を図るための授業改善の工夫が見られた。 ICT(情報通信技術)教育とは電子黒板、ノートパソコン、タブレット型端末等を用いた教育(デジタル教材等を使用) | 平成26年度においては恩納校・安富祖のICT整備を行うと共にICT機器の活用についての教師の研修等を行いたい。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|----------------|---|--|---|--|---|----|-----------|
| 就学支援事業 | 一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に恵まれない児童生徒の教育を支援する。 | 周知徹底を図る為、村ホームページ等への掲載、また今年度よりSSWが配置されたので連携して、経済的支援を進めていきたい。 | SSW・学校事務職員との連携により、年度途中に経済的支援が必要になった家庭を把握し、経済的支援をすることができた。 | SSW・学校事務職員との連携により円滑に支援できたが、村ホームページ等への掲載が準備不足の為できていない。 | 村ホームページ等への掲載や、引き続き、SSW・学校事務職員と連携し、経済的支援を進めていきたい。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 心の教室相談員配置事業 | 児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。 | SC・SSW・村相談員との連携を図ること。 | 心の教室相談員研修会での連携を図った。 | 課題のある子供に対して、各学校できめ細かに対応することで解決に結びついた。 | いじめ防止条例等における心の教室相談員の対応について検討する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 教育の情報化コーディネーター | 恩納村立幼稚園・小中学校における学校ICT環境整備に対する提案とその効果的な活用、情報化による授業改善や児童生徒への直接指導、テレビ電話システムを活用、リスクマネジメント、情報機器を活用した情報公開・広報等について専門的知見から教育の情報化を推進するために派遣する。 | 全ての学校へのICT環境整備を促進する。 交流先と計画的・継続的に交流を実践するために教育課程への位置づけを行う。校務分掌に担当者を決めて計画的に実践する必要がある。 | ICT環境整備を進めると同時に、活用推進に向けての取り組みを推進する。 年間指導計画の作成を推進し、教育課程への位置づけを図る。 | ICT活用により、山田校の児童生徒の学力が向上した。 各学校における情報教育機器のトラブルや新規導入に対し、専門的知見を生かして対応した。 | 全ての学校へ最新のICT機器の導入を図り、児童生徒の学力の向上を図る。 教育の情報化コーディネーターによるテレビ会議システムに対する児童生徒の評価をどのようにするか | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------------|--|--------------------------------------|---|---|--|----|--------------|
| 学習支援員配置事業 | 学校教育の課題である児童生徒の学力向上に資するため、各学校へ学習支援員を配置し、算数・数学を中心としたきめ細かな指導を実施する。 | 3・4年生以外に、学校裁量で、課題である学年にも配置できるようにする。 | 学習支援員活用要項の一部改定と各学校への周知。 | 各学校の弾力的運用ができ、他学年でも活用するようになった。 | マネジメントサイクルに基づく、支援員の有効活用が課題である。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 特別支援員配置事業 | 障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。 | 継続して、支援員研修会を開催するとともに、内容の充実化を図る。 | 特別支援員研修会を年10回開催し、ケースに応じた解決策を探る研修会を実施した。 | 支援を要する児童生徒の対応について意見を述べ合い、改善に結びつけた。 | 毎年特別支援員配置についての要望が多くなっている。59名 | B | ①現状の内容で継続 |
| 英語指導助手派遣事業（ALT） | ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。 | 中学校指導要領の完全実施に伴う指導時間数増加により対応する。 | ネイティブを増やし、全ての中学校の英語教育に対応できるようにした。 | ネイティブを恩納校に単独で加配し、小学校外国語活動も担当した。 | 小学校におけるネイティブをどのように有効活用するかが課題である。 | B | ②事業規模を拡大して継続 |
| 対外競技派遣事業 | 児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。 | 後年度も継続して各部活動の充実を図るため対外競技派遣費用の確保に努める。 | 各学校での部活動が充実し、県内外での大会への派遣費用等の予算確保に努めた。 | ソフトボール、バドミントン、空手、ものづくり教育フェア等への派遣費用を確保できた。 | 今後も継続して各部活動の充実を図るため県外等派遣に関する費用の確保に努める。 | S | ①現状の内容で継続 |
| 中学校部活動支援事業 | 中学校の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。 | 各学校部活動の更なる発展を推進するため継続的な部活動予算を確保する。 | 文化的・体育的活動の充実を図るため部活動消耗品等の部活動予算の確保に努めた。 | 各学校への部活動予算の配分を行い、部活動消耗品等の充実が図られた。 | 各学校部活動の更なる発展を推進するため継続的な部活動予算を確保する。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|------------------|--|--------------------------------------|------------------------------|--|-------------------------------------|----|-----------|
| 知能検査 標準学力検査事業 | 児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。 | 生徒理解の一貫として、中学校知能検査については、実施学年を1学年とする。 | 知能検査及び活用説明会を早い時期に開催し、活用を図った。 | 知能検査における中学校の生徒理解が進んだ。 | 各種学力調査との関連から標準学力調査の学年及び回数改善を行うこと。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 指定研究事業 | 特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。 | 指定研究2年目の取り組み及び安富祖校の推進。皆泳指定講師の確保。 | 早い段階での指定研究校との連携を図った。 | 特色ある学校づくりとして山田校における指定研究の成果が見られた。皆泳指定研究では、6学年で80%が25分以上泳げるようになった。 | 安富祖校・仲泊校指定研究の推進。皆泳指定研究の講師の確保が課題である。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 安富祖小中学校施設整備事業 | 適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保 | 電気設備の安全柵の劣化等による修繕。 | 電気設備のキュービクル上屋の改築をした。 | 安全柵からブロック造及びトタン屋根にしたことにより、腐食対策及び安全管理に寄与できた。 | キュービクル本体の長寿命化及び機能維持を図っていく。 | A | 事業の完了 |
| 仲泊小中学校施設整備事業 | 安心・安全な教育環境の確保 | 児童生徒の教育環境の改善 | 運動場海岸側に防球ネットを整備した。 | 施設整備により、飛んだボールが運動場外にでることを防ぎ教育環境の改善を図った。 | 台風時等における防球ネットの上げ下ろしの周知徹底。 | A | 事業の完了 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------------------------------|---|--|--------------------------------------|--|--|----|-----------|
| 学校施設維持管理事業 | 適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保 | 安富祖校の空調設備・仲泊校・恩納校のプール施設は、老朽化しているので関係機関と調整して事業化に向けて取り組む。 | 中学校統合問題等を考慮しながら、事業を計画した。 | 安富祖校空調及び仲泊・恩納校のプール施設の修繕等で対応した。 | 施設の老朽化が進んでいるので、施設修繕を図りながら、中学校統合問題を考慮し、事業計画を検討する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 恩納村立中学校適正規模推進事業 (恩納村教育振興審議会答申) | 少子高齢化に伴い、幼小中学校の児童生徒の減少化は進み、殆どの中学校で学年1学級又は複式学級となっており、今後もこの傾向は続くことが予測され幼小中学校の適正規模推進計画を策定し、中学校統合に向けた事務事業を実施する。 | 答申内容に沿った事務事業の推進を実施し、中学校統合の先行地視察をし、統合後の現状の把握に努め、地域説明会等の実施に生かしていく。 | 統合中学校建設候補地選定委員会設置要綱を制定し、14名の委員に委嘱した。 | 第1回の委員会で7ヶ所の仮候補地を選定し、役場関係部署職員で構成する任意部会で各候補地のメリット・デメリットを審議した。 | 候補地の現地踏査を行い、3箇所程度に候補地を絞り込みコンサルタント業者へ費用等の調査を委託する。 | B | ①現状の内容で継続 |

(2) 社会教育関係所管事業

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------------------|---|--|---------------------------------------|---|---------------------------------------|----|-----------|
| 青少年団体等活動助成事業 (4団体) | 青少年を対象としたボランティア活動やスポーツ活動を行っている団体に対して助成を行い、その活動を支援し健全な青少年の育成を図る。 | 子ども会への周知に留まらず、他の各種青少年団体等への周知を図ることが必要。 スポーツ団体や読み聞かせ団体との連携。 | 子ども会及び読み聞かせボランティア団体、少年スポーツ団体への周知を行った。 | 子ども会以外で読み聞かせボランティア団体への助成が出来た。 ・子ども会1団体 ・読み聞かせボランティア2団体 ・放課後子どもクラブ1団体 | ・各種ボランティア団体等へ事業の周知を継続して行い、活用について啓発する。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|----------|--|--|--|---|---|----|--------------|
| 国際交流派遣事業 | <p>創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。</p> <p>(中高校生対象：6名、但し、応募が少ない場合には大学生の応募も対象可)</p> | <p>「アメリカホームステイプログラム」については今後も継続するが、村立小中学校で台湾の小中学校とインターネットを活用した交流を行っているので、現地児童生徒との交流に繋げていくことで、新たな交流事業として展開する必要がある。</p> | <p>「アメリカホームステイプログラム」については、応募開始1ヶ月前より村広報誌、ホームページを活用して募集案内を実施。激励会・報告会の開催。</p> <p>帰国後、学力向上推進実践報告会にて参加者の発表の機会を設けた。</p> <p>事業調査に向けて様式の作成を行った。</p> <p>現在行っているアジア圏内とのインターネットを活用した交流事業を発展させた事業を立ち上げるため、現地視察として職員を派遣し、現地校や教育機関との調整を行った。</p> | <p>応募期間周知の時期を早めたが、前年度の応募者11名に対し、応募者が7名と減少した。しかし、応募動機に向上心等が高い者からの応募が増加傾向にある。中学生の参加者については、村学推実践発表会において、感想発表を行った。</p> <p>また、被派遣者事後調査を実施するため、下準備として調査書の様式作成に着手した。</p> <p>高校生：1名 中学生：5名</p> <p>アジア圏内交流事業については、現地視察の結果、台湾の小学校2校、中学校1校と事業実施に向け、調整を行った。</p> | <p>「アメリカホームステイプログラム」については、実施要綱の見直しを行い、事業周知の拡充を図る。</p> <p>また、被派遣者の事後調査書の様式が出来上がったので、調査を実施し、結果を集約する。</p> <p>アジア圏内交流事業については、次年度の事業実施に向けて、実施要綱等の整備、予算の確保等を図る。</p> | A | ②事業規模を拡大して継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|------------------------|--|---|---|--|--|----|-----------|
| 自然生活体験学習「サバイバル・キャンプ」事業 | 無人島キャンプを行い、自然に親しみ、仲間と協力することで協調性を育み、健康で思いやりのある心の育成を図る。 | ここ3年間は、天候状況により、事業の中断や中止が多いため、予備日の設定等の検討が必要である。 また、引き続きリーダー育成に取り組む必要がある。 | 前年度、台風の影響により事業中止となったこと、学校教育課で行われている5年生集合学習の参加学年が同一学年であることから、参加資格を5年生から6年生へと変更した。 荒天時を想定し、予備日程を設定して事業を実施した。 | 参加資格を5年生から6年生へ変更することで、同一年度に同学年が類似事業に参加することの防止にも繋がった。 6年生：35名 ジュニアリーダー：18名 | 今後は、野外炊飯活動時に火熾し器を活用し、より目的に沿った活動に変更していく必要がある。 また、サバイバル・キャンプが勤労体験学習（田植え、稲刈り）との連携事業であることの周知を図る必要がある。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 成人式事業 | 新成人の新たな門出を激励すると共に、社会を構成する成人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図る。 | 式典・祝賀会の内容を再検討する必要がある。 また、実行委員会主体による事業企画・運営の認知度が低いため、今後も実行委員会の周知を図る必要がある。 | 実行委員会募集を、村広報誌・公民館などへ早めに周知し、青年団協議会を仲介役として募集を行った。 また、祝賀会内容の検討を実行委員会で検討し実施した。 | 前年度の実行委員や村青年団協議会を通して募集を行うことにより、速やかに委員を集めることができた。 また、祝賀会の内容については、該当者・出席者も楽しめる内容について実行委員の中から意見が出るようになり、その内容を実施することができた。 成人式祝賀会実行委員： 10名 (各校区より 2名) 新成人該当者： 107名 成人式参加者： 87名 | 今後も実行委員会を立ち上げ、式典・祝賀会の内容について検討を継続する必要がある。 また、徐々に実行委員会主体による事業企画・運営の認知度が上向いている傾向にある。まだ定着がないので、今後も実行委員会の周知を図る必要がある。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|----------------------------|--|--|--|---|--|----|----------------------|
| 社会教育教室 (うんな大学) (全5回) | <p>本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の向上やボランティア活動への参画意識向上の機会とする。</p> <p>また、本講座での学習成果を学校地域支援事業へ繋げ、本村における教育資源の素晴らしさの再発見とボランティア活動における人材育成を図ることを目的とする。</p> | 新規事業 | <p>本村の文化・歴史・方言に関する講座を開設し、事業を実施した。</p> <p>シルバー教室に換えて、「18歳以上の村民」を対象とした新規事業であるので、各自治会等へ事業の周知を行った。</p> | <p>本村の文化・歴史・方言、沖縄における祭事を学ぶことで、本村や沖縄に関して再認識することができた。</p> <p>新規事業であるため、村民への認知度が低く、受講者が8名にとどまった。</p> | <p>今後は、広報誌や村ホームページへの掲載等で事業周知の拡充を図る必要がある。教室内容、開催時間等の村民ニーズの把握が必要である。</p> <p>また、学校支援ボランティア事業と関連のある事業として実施する必要がある。</p> | B | ①現状の内容で継続 (回数の増加) |
| いきいき女性教室 (全5回) | <p>学習機会を通して資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。</p> <p>併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習啓発の場とする。</p> | <p>受講者が参加しやすいように開催日時を考慮する必要がある。</p> <p>また、村婦人会や各字婦人会等が要望する教室内容をアンケートにて集約する必要がある。</p> | <p>女性層(婦人会等)よりニーズを調査把握し、現在要望の高いとされる項目を選択して教室を開催した。</p> | <p>女性層のニーズを把握し、受講する側に関心のある教室を実施することで、僅かではあるが前年度に比べ受講者が増加した。</p> <p>自宅でできる姿勢改善法(1回):受講者22名 デジカで撮った画像を「スライドショー」や「フォトブック」を作ろう(3回):受講者10名 「島野菜」を活用して健康でいよう(1回):受講者19名</p> | <p>受講者が僅かではあるが増加しているが、更に受講者の増加を目指し、今後も女性層(婦人会等)へニーズ把握のための調査を継続して実施する必要がある。</p> | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------------------|---|--|---|--|---|----|-------------------------------|
| 人材育成研修 (全1回) | 将来を担う人材育成の一環として、文化・教養・健康・地域づくりなどの学習の機会を提供することで、視野を広め、参加者の資質向上と社会参加への意欲を高める。 | 今後も村青年団協議会と協力し、講座の周知徹底を行う。 参加者に対しアンケートを実施し、青年層のニーズを把握する必要がある。 | 教室開設にあたり、村青年団協議会と事前協議を行い、各字青年会へ周知協力や参加依頼をした。 また、リーダー育成研修と同一事業として開催するため、各団体等への事業実施の周知も併せて行った。 | 事業実施の周知徹底を行ったが、受講者が前年度に比べ少し減少した。 しかし、社会人として生活していく中で必要とされるコミュニケーション能力の大切さを、公演とワークショップ形式を取り入れることで受講者の意識改革の機会となった。 コーチングセミナー～コミュニケーション能力を身に付けよう～：10名 | 事業内容が地域リーダー研修と重複する部分があるので、事業統合して実施する。 | B | ①現状の内容で継続 (地域リーダー研修との事業統合) |
| 楽しく子育て教室 (全6回) | 子育てに大切な生活習慣のあり方を学び、親子のふれ合いと子育て中の親同士の交流の機会を設け、家庭教育の啓発を図る。 | 会場を支援センターに限定したため、施設利用者以外の受講が少なかったため、それ以外の会場設定が必要である。 また、内容が体験教室に偏っているので、家庭教育の基本である生活習慣の改善につながる教室開設の検討が必要。 屋外でのびのびと身体を動かせるような教室の検討も必要である。 | 教室内容を、事前に支援センター職員と協議をして決定した。 支援センター以外の開催会場を赤間多目的運動場、村立各保育所(今年度：恩納保育所)を設定した。 | 支援センター職員と協議して教室内容を決定したことにより、支援センター利用者が要望している内容を行うことができた。 また、会場を支援センター以外にも設定することで、支援センターでは実施することができない内容も実施することができた。 リズム・リズム遊び：58名 センター利用者と保育所の交流：57名 | 今後も、開設場所を支援センターに限定することなく、村内社会教育施設を活用する。 また、マイクロバスを活用し、村内保育所に通所している園児との交流にも繋げる。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 今後の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|---------------------|--|---|--|--|---|----|----------------------------------|
| | | | | 「食う・寝る・遊ぶ」子どもの暮らしを考える：30名 昔遊び：41名 親子料理教室：23名 | | | |
| 地域リーダー研修 (全1回) | 村内各地域及び団体間の交流を深めると共に地域のリーダーとしての資質の向上を図り、地域づくり、人材育成に繋げる機会とする。 | 企画立案、講師依頼を早めに行い、事業実施に努めるとともに、事業内容として講演会方式やワークショップ方式等を適宜検討して行う必要がある。 | 今年度は、地域人材育成研修と事業内容が重複する部分があるので、同内容で事業を実施した。 実施に向けて、各団体等へ事業実施の周知を行った。 | 青年層の出席はあったものの、地域のリーダーとして活躍して欲しい人材の出席がなかった。 村学校支援員が事業内容に興味を示し1名の参加があった。(村学習支援員1名) | 事業内容が地域人材育成研修と重複する部分があるので、事業統合して実施する。 | C | 事業の完了 (人材育成研修との事業統合) |
| ボランティア養成講座 (全5回) | ボランティア活動で地域に寄与している方々を対象に活動に必要な資質の向上を図ると共に相互の交流を図る機会とする。 | 読み聞かせ団体と講師との日程調整を慎重に行い、受講者の増加に取り組む | 各校読み聞かせ団体へ学校図書館司書を通し、アンケートを実施して、講座日程を決定した。 また、講座の中で習得した朗読劇を各団体で活用するよう依頼をした。 成果発表の機会を設けた。 | 読み聞かせスキルアップ講座に集中し、朗読劇を習得することで、読み聞かせ団体の更なる資質の向上につながった。 学校において朗読劇の披露等などにつながり、学校支援・ボランティア活動の活性化につながった。 今年度も、朗読劇を2作、作りあげる事ができた。 ・「へや」 ・「貧乏神」 読み聞かせスキルアップ教室(朗読劇制作)：12名 | 読み聞かせボランティア活動については、各校とも活発になってきており、また、村全体として「サークル」も立ち上がったことから、読み聞かせに関する講座としては平成26年度を最終年度とし、今後は、学校支援ボランティア事業のボランティア養成に繋がる補助的事業として講座を実施する。 | S | ①現状の内容で継続 (養成が必要なボランティアへ対象変更) |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 今後の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|------------------|---|---|---|---|--|----|-----------|
| 公民館講座 (6講座開設) | 村民に対して学習機会を提供するとともに指導者の養成を図る。 | <p>今後も引き続き婦人を母体とした団体以外からも申請があるよう、周知を継続して行う。</p> <p>活動を継続して行っているグループについては、引き続きサークル化移行への支援が必要である。</p> | <p>講座開設申請者が婦人を母体とした団体に偏らないよう、各団体や各区長へ周知依頼をした。</p> <p>公民館講座での成果を発表する機会を提供した。</p> <p>また、同内容を継続して開催しているグループについては、サークル化への助言をした。</p> | <p>講座を開設したグループ間の活動や交流の支援に繋がった。</p> <p>また、クラフトバック教室・カービング教室については、成果発表会での成果品の展示、各公民館講座については、活動状況報告も行った。</p> <p>恩納公民館(ゴルフ)：11名 " " (ピラティス)：17名 谷茶公民館(クラフトバック)：10名 富着公民館(クラフトバック)：10名 仲泊公民館(カービング)：16名 山田公民館(ズンパ)：14名 宇加地公民館(健康体操・料理教室)：11名</p> | <p>これまでの講座開設の周知により、婦人を母体とした団体のみならず、それ以外からの申請も増加傾向にある。</p> <p>趣味の延長上の講座が多いため、公民館を活用して地域見聞、見つめ直しのような講座等開設への助言が必要である。</p> | A | ①現状の内容で継続 |
| 青少年劇場小公演事業 | 優れた芸術を直に鑑賞し、感動と喜びを与えることを目的とする。県文化財課からの受託事業。 | 演奏発表など児童生徒に参加の機会が持てるよう取り組みたい。 | ・児童生徒のリコーダーの体験指導の実施について、講師と調整を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・短時間ではあるが、講師の指導により、児童のリコーダー体験ができた。 ・今回複数の学校から申し込みがあり、県と調整のうえ2校で実施することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・当事業を継続するため、学校及び県文化財課との連携を密に取り組む。 ・アンケートを実施し、事業についての感想を収集したい。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------------|---|---|---|--|---|----|-----------|
| 村青少年健全育成事業 | 村の補助事業として村内各団体で青少年健全育成協議会を組織し、次代を担う青少年の健全育成を図る。 | 夜間街頭指導の充実を図るため、地域の青少年を把握している保護者(各字子ども会)へ協力依頼をする必要がある。 深夜はいかい、青少年の生活リズム形成等の啓発活動に引き続き取り組む。 | 夜間街頭指導の充実を図るため、地域の青少年を把握している保護者(各字子ども会)へ協力依頼を行った。 | 夜間街頭指導の協力者として各字子ども会を含めたことにより、夜間街頭指導の強化に繋がった。 青少年の生活リズム形成等に関する講演会の開催に向けて講師と調整を行ったが、日程が合わず実施することができなかった。 | 夜間街頭指導については、更なる強化を目指して、各校区毎の実施の切り替えへの検討が必要である。 また、青少年の生活リズム形成等に関する講演会については、講師の来県日程を早めに調査し、日程調整を行う。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 人材育成激励金支給事業 | 教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。 | 今後も支給事例について広報誌等を活用して紹介し、周知を図りたい。 | ○支給事例を広報誌で紹介し、広報活動を行った。 | スポーツ競技は 69 件の支給があった。 ○スポーツ面 サッカー 学生：22 件、一般：24 件 バドミントン 学生：8 件、一般：1 件 陸上、駅伝 学生：7 件、一般：2 件 バレー 学生：1 件、一般：2 件 野球 学生：2 件 ○文化面 平成 25 年度申請(文化面)については、なかった。 | 周知活動を行うとともに、人材バンク等への登録や他事業への連携を図り、人材を活用できるようにする | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|---------------|--|--|---|---|---|----|-----------|
| 文化情報センター準備室業務 | 文化情報センターの設置に向け、必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書貸出サービスの提供に取り組み、読書活動を推進する。 | 金武町、読谷村における広域貸出サービスの継続依頼とともに村民への利用マナーの啓発に取り組む。 県内図書館との相互貸し出しサービスの周知に取り組む。 図書の登録に取り組むとともに準備室での貸出について取り組む。 | 金武町、読谷村広域貸出サービスや図書館利用マナーについての周知を行った 準備室にて貸出を開始した。 リクエストサービスについての周知を行った。 図書の登録作業に取り組んだ。 移動図書館の開催について取り組んだ。 子ども読書推進計画検討委員会の設置に取り組んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 金武町登録者数 37人(延べ126人) 利用者数739人 (123%up) 貸出冊数3,200冊 (128%up) 読谷村登録者数 28人(延べ65人) 利用者数368人 (119%up) 貸出冊数2,161冊 (127%up) 文化情報センター準備室 (10月～3月分) 登録者数：164人 利用者数：900人 貸出冊数：2,939冊 リクエスト：102件 移動図書館 (H25年度は2回実施) 来館者：398人 貸出人数：49人 貸出冊数：398冊 平成25年度準備室図書 登録冊数：10,012冊 講演会の開催 参加者数：22名 建設現場の仮囲いを利用したウォールアート・ペイント実施 ・文化情報センター建設業務に関する調整事務 | 文化情報センターの設置に向け、円滑な事務を図ると共に開館にむけて各種サービス内容を定める。 条例の設置、ICタグの導入、運営協議会の設置 | A | ①現状の内容で継続 |

(3) 社会体育関係所管事業

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|---------------------------|---------------------------------|---|--|--|--|----|-----------|
| 各種社会体育事業の充実 (体力テスト) | 村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。 | 体力テストの参加者が増えるよう普及活動に力を入れる。 また、体力テスト以外にも連携して行える事業を展開していく。 | 福祉健康課等と連携し、健康福祉まつり、ウォーキングフェスタ等でニュースポーツ体験を実施した。 | 体力テストは場所等の都合により実施出来なかったが、ニュースポーツ体験を実施し、健康増進の意識高揚につながった。 ラダーゲッター 41名 ノルディックウォーキング 21名(113名) | 体力テスト以外にもスポーツ推進事業を実施できるよう連携して展開していく。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 各種社会体育事業の充実 (スポーツ教室) | 村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。 | スポーツ推進委員と連携し、参加しやすい教室展開を継続する。 | 夜間に教室を開催し、「ピラティス教室」を南部地区、北部地区で各5回開催した。 | 多くの村民の参加があり、健康増進への意識高揚につながった。 北部地区：59名(42) 南部地区：68名(58) | スポーツ推進委員と連携し、参加しやすい教室展開を継続する。また、アンケート等による要望等の調査実施が必要である。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 各種社会体育事業の充実 (壮年バレーボール) | 村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。 | 参加者全員が楽しめるような大会運営と、参加チームが増えるようにスポーツ推進委員と協力しながら周知活動していきたい | スポーツ推進委員定例会での大会調整、スポーツ推進委員からの周知活動を行った。 | 申し込みは12チームあったが、台風のため、中止になった。 申込チーム：12チーム(7) | スポーツ推進委員と協力しながら大会運営、周知活動していきたい | C | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------------------------------------|--|--|---|---|------------------------------------|----|-----------|
| 各種社会体育事業の充実 (壮年ソフトボール) | 村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。 | スタッフが少なく、大会運営が大変だったので、参加チームにも協力してもらって大会運営を行えるよう調整していく。 | 監督会議で大会運営に協力してもらうように調整した | 参加チームに大会運営協力（審判員）をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。 参加チーム：18チーム (18) | 今後も参加者・スポーツ推進委員と調整し、スムーズな大会運営を目指す。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 各種社会体育事業の充実 女性スポーツ大会 (ソフトバレー) | 村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。 | ルール等の確認、審判（スポーツ推進委員）の更なるスキルアップが必要である。 | スポーツ推進委員研修において講習会を実施した。 参加者：13名 | スポーツ推進委員が主体となって大会運営ができた。 参加チーム チャレンジクラス：5チーム チャンピオンクラス：3チーム | スポーツ推進委員と協力しスムーズな大会運営、積極的な周知活動を行う。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 各種社会体育事業の充実 (ミニバレー) | ミニバレーを通してスポーツ技術の向上を図り、健康増進の意識高揚、村民の親睦を深める。 | 参加チームを増やすために、継続して周知活動に力を入れていきたい。 | 字への通知だけでなく、スポーツ推進委員と協力し、スポーツ推進委員自ら周知活動を行った。 | 参加チームも増え、各クラスで参加があり、幅広い年代でミニバレーを楽しむことができた。 参加チーム 18 (16) チャレンジクラス A 2 チャレンジクラス B 8 チャンピオンクラス 8 | 参加チームを増やすために、継続して周知活動に力を入れていきたい。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|------------------------|---|---|---|--|---|----|-----------|
| スポーツ推進委員の資質向上 | 各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。 | 県、中頭地区の研修への参加、 また、自ら研修を企画し、スポーツ推進委員全員の資質向上を図る。 | 県や中頭地区での研修へ積極的に参加した。 また、村で行われる大会やイベント等に繋がる研修を自ら企画し実施するなかで、スポーツ推進委員の資質向上につながった。 | 様々な事業でスポーツ推進委員が中心になって大会運営ができた。 スポーツ委員研修等参加延べ人数 H24：325人 H25：319人 | 県、中頭地区の研修への積極的参加、 また、自ら研修を企画し、スポーツ推進委員全員の資質向上を図る。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 恩納村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援 | 恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。 | スポーツ振興、競技力向上のために、事業展開や施設の有効活用等の指導・助言を行っていく。 | スポーツ振興、競技力向上に繋がるような事業展開の提案など、指導助言を行った。 | 今回は新たな事業展開はなかったが、駅伝、バドミントン、ゴルフなどで優秀な成績を収めた。また、社会体育施設の年間を通しての活用が見られた。 | 今後もスポーツ振興、競技力向上のために、事業展開や施設の有効活用等の指導・助言を行っていく。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 村立小中学校体育施設（プール）の一般開放事業 | 夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。 | 開放期間中の水泳教室は今後も継続していきたい。 土日開放については、土日の利用が少ないので検討の余地がある。 | 今回は平日のみのプール開放を行った。また仲泊校、安富祖校で開放期間中の水泳教室を実施した。 | 教室実施数及び参加者 仲泊校 3回(23名) 安富祖校 3回(42名) プール利用延人数 1268(974) 安富祖：175(100) 喜瀬武原：110(179) 恩納：267(250) 仲泊：410(247) 山田；306(198) | 開放期間中の水泳教室は今後も継続していきたい。 土日開放については、土日の利用が少ないので今後は平日開放を継続する。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|---------------|--|---|--|---|--|----|-----------|
| 各種団体等県外派遣補助事業 | 村民のスポーツや文化活動に対する意欲を向上させ、各種スポーツ及び文化的活動の振興を図る。 | 事業を継続し、該当する団体、個人等の情報収集、広報誌等での周知に努め、スポーツ、文化活動への意識向上を図る。 | 派遣事業に該当する団体の情報収集、広報誌等の活用、周知徹底に努める。 | ○小学生 該当なし ○一般 該当なし | 事業を継続し、該当する団体、個人等の情報収集、広報誌等での周知に努め、スポーツ、文化活動への意識向上を図る。 | C | ①現状の内容で継続 |
| 村体育施設維持管理事業 | 村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。 | 施設の維持管理の徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営を行っていきけるよう指定管理側と連携し、施設収入増を目指す。 | 施設利用率向上に向けての施設維持管理徹底の指導を行った。 また、定期的に調整会議を行い、問題点解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理側との意思疎通を図った。 | 施設維持管理については、利用者からも好評である。 H24 利用者 76,333 利用回数 (799) H25 利用者 65,152 利用回数 (682) ○自主事業 ・整理収納術教室 ・少年サッカー交流戦 ・救急法等講習会 ・三星ライオンズ野球教室 ・サッカー教室(通年)、 その他スポーツプログラム開催 | 施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていきけるよう指定管理側と連携する。 | B | ①現状の内容で継続 |

(4) 学力向上推進委員会事業

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------|--|--------------------|---------------------------|---|---|----|-----------|
| 地域学習塾支援事業 | 学力向上推進委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。 | 運営についての共通確認が必要である。 | 地域塾開始事前における説明会を実施し周知を図った。 | 全ての地区において、計画・実施された。 延べ 1940 人が参加 各自治会とも工夫した取り組みが見られた。 | 一部支部で、地域塾開設所の提出がなかったため、今後は、支援員活用のための計画書の提出を求める。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|--------------|---|-------------------------------|-------------------------------------|---|--|----|-----------|
| 石狩市中学生交流事業 | 地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。 | 隔年派遣のため、本年度は受け入れとなった。 | 受入れ民泊家庭との早期連携と新規内容を追加した。 | 平成 25 年度は受入れ年度であり、友好都市締結と同時期に開催した。北霊の碑が新たなメニューとして追加したことで、平和に対する生徒の意識が高まった。 | 新年度開始と同時に募集を行い、募集定員 20 名の確保に努める。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 講演会事業 | 各学校の児童生徒・教職員の資質の向上に資することを目的に、著名人を招き、講演会を開催する。 | 各学校の児童生徒・教職員の課題を踏まえた講演会を開催する。 | 各学校・事務局共に、教職員の授業力向上の講演会を主に講演会を実施した。 | 各学校では、各教科、N I E・道徳・特別支援・家庭教育・特別支援教育・キャリア教育等学校独自の研修会を開催した。事務局では、教職員の授業力の向上を図るため、特別授業研修会を継続し、「川嶋環」氏と「椎名美穂子」氏による充実した研修会が実施された。 | 教職員の授業力向上のために、今後も継続した講演会を開催することが必要である。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 教職員先進地視察研修事業 | 学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。 | 教育委員会課題から学校課題に対する研修に変更。 | 各学校独自で派遣校の選定を行い、計画・派遣できるようにした。 | 小学校において実施。2校は教育委員会事務局提案「教育展望セミナー」、1校は、学校提案「秋田県教育フォーラム」へ派遣した。 | 派遣者の学ぶ姿勢や積極的に学力向上に参画する意識が高まった。派遣者個人の研修になりがちで、研修後の各学校での波及が課題となっている。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------|--|--------------------------------------|--|---|------------------------------------|----|--------------|
| 学推実践報告会 | 恩納村学力向上推進の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する。 | 保護者や地域の参加者が少ない。 | 広報無線を活用して知らせるとともに、学校を通して保護者へ参加を促した。 | 学推コンクール・教育の日表彰を同時に開催したためか、例年より保護者の参加者が増えた。 | 家庭地域教育の役割について学推要項を検討し、啓蒙を図る。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 諸検定料支援事業 | 全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力の意識化と定着を図る。 | 学校によって半額補助予算を全て使い切る学校とそうでない学校とがある。 | 3大検定に絞ってチャレンジできる人数を増やす。 | 例年受験者が増えている。上位入賞者も増えている。 受験者数 英検：385名 漢検：696名 数検：171名 理検：36名 | 運営における学校教員の対応が難しい。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 未来塾事業 | 高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。 | 恩納校・山田校への拡大への対応。 | 早期に、恩納校・山田校開催に向けた人的配置の要請を名桜大学に依頼する。 | 恩納校・山田校だけでなく、仲泊校でも開催した。全ての学校で全員合格した。また、学校での学ぶ姿勢が変化した。 | 学習ボランティアに対する交通費等の要綱内容の検討。 | B | ①事業規模を拡大して継続 |
| スキルアップ研修 | 各学年・教科1人体制という課題を解決するため、村内職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。 | 開始時間については様々な意見がある。まとめの分科会は設定する必要がある。 | 全体会・分科会の時間を確保して計画する。 | 小学校各学級担任・中学校の教科担任が積極的に取り組むようになった。小学校5学年合同体験学習が復活した。 | 本村児童生徒の課題解決に向けた更なる取り組み。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 各種コンクール事業 | 各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。 | 美化コンクールを研修会へ変更。 | 校務改善の観点から、コンクールの応募を夏季休業前に開始し、美化コンクール事業を廃止した。 | 多くの児童生徒の応募があった。 | あいさつ標語コンクール優秀賞受賞作品の活用について検討が必要である。 | B | ①現状の内容で継続 |

(5) 博物館所管事業

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------|--|---|--|---|---|----|-----------|
| 博物館運営 | 博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。 | <p>村民による施設活用成果を評価するため、入館者数のカウント方法の検討など統計情報の充実が必要である。</p> <p>また、継続した入館者・施設利用者増加のための企画に取り組んでいく。</p> | <p>公民館や漁協、商工会などに協力していただき、展示会を企画した。大正琴サークルの活動支援、社会教育課の事業等での会場として利用してもらうなど、施設の活用につながる取り組みを行った。</p> <p>更に、個人の展示会を受け入れるなどし、施設の活用を図った。</p> <p>村内の教職員の研修の受け入れや小中学校の授業での利用の受け入れのほか、総合学習での授業内容の相談を受けるなどした。</p> <p>博物館運営協議会については、年2回開催した。</p> | <p>博物館利用人数 8,637名。内訳として、入館者 6,309名、施設利用者 2,328名（前年度 9,751名、入館者 6,694名、施設利用者 3,057名）。</p> <p>平成25年度は、展示会3回、移動展1回、サンセットコンサート、2回の講座・体験教室を開催したほか、個人の展示会3件の受入、教育委員会の事業（移動図書館、講座など）にて博物館を利用してもらうなど、施設の活用に取り組んだ。また、村内小学校の授業時間での利用受入の他、職員が学校に赴き、授業を行ったり、教職員の研修の受入などを行った。</p> <p>運営協議会では、今後開館する文化情報センターとの連携、学校の授業との連携に取り組んでいく必要性の指摘があった。</p> | <p>文化情報センターの開館によって、博物館を取り巻く状況も変化していくことが想定されるため、展示内容のリニューアルも視野に入れた今後の取り組みを検討する。</p> <p>また、継続した入館者・施設利用者増加のための企画に取り組んでいく。</p> | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------------------|---|--|---|--|---|----|-----------|
| 「海に見える博物館、うんな工芸展」 | 村内で活動する作家の作品を展示し、伝統工芸、現代の工芸を紹介すると共に、体験教室を開催し、伝統工芸や現代の工芸の魅力に触れさせ、工芸や芸術に対する理解を深めてもらう場とする。 | 工芸の分野の充実、新規出展者の開拓、展示方法などを検討し、より特色ある展示会作りを目指す。 また、工芸体験の定着を目標とし、内容の充実を図っていききたい。 | 村内で活動する陶芸、琉球ガラス工芸、漆工芸の作家・工房に作品の出展を依頼した。 期間中に開催する工芸体験では当日参加者が持ち帰ることが出来る内容にし、参加しやすいようにした。 | 8/13～9/1 に開催（18日間）。期間中の来場者425名（前年度12日間、439名）。また、8/17 に工芸体験教室を実施した。 | 展示内容、展示方法等の見直しを行い、伸び悩む来館者の増加に取り組む。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 企画展 「恩納村の海の恵み」 | 博物館が収蔵する資料や文化財の資料を活用し、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化財に対する理解を深めてもらう場とする。 | 毎年の企画展を通して、自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。 | 伝統的な漁法や漁業に関する民具の展示の他、字誌が発刊されている字を中心に海や海岸に関する地名や漁獲物の方言名を聞き取りなどで調査し、展示に反映させた。また、現代の漁業の紹介では村漁協や商工会に資料提供などの協力をしていただき、恩納村の漁業に関する情報をより多く発信できるよう努めた。 | H26年2/1～3/16開催（37日間）。期間中来場者1,265名（前年度企画展51日間、1,498名）。 漁法や漁業に関する民具の紹介、調査成果である海に関する地名や漁獲物の方言名、現代の漁業など幅広い項目について紹介できる展示となった。 また、展示会の内容をまとめた図録を作成し、関連催事として、講座を開催した。 | 継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|---|---|--|---|--|--|----|-----------|
| 移動展 「防災展～もしものときに備えて～」 | 博物館以外の施設を利用した展示会を開催することで、村の情報を広く村民に公開・活用できるよう取り組んでいく。 | 恩納村の地理的な特色も踏まえ、博物館から離れた地域の方々にも情報発信が出来るよう移動展を開催する。 | 村の新しい防災マップの周知や防災の意識向上などを目的に企画。総務課、文化情報センター準備室と連携して展示の準備を行ったほか、沖縄市の博物館にも協力をしていただいた。 | H25年9/5～30に役場村民ギャラリーにて開催。期間中来場者 283名。展示をとおして、東日本大震災の津波の様子の写真、村の防災の取り組みの紹介、防災に関する図書の紹介などを行った。 | 博物館で開催した企画展の展示物などを広く村民に公開・活用できるよう、村内の他施設を利用した移動展を継続していく。 | B | ①現状の内容で継続 |
| (共催事業) 平成 25 年度 沖縄県芸術文化祭 写真選抜展 | 沖縄県、沖縄県文化振興会主催の「沖縄県芸術文化祭」の移動展を受け入れ、村民が芸術作品を鑑賞する機会を設け、芸術振興に資することを目的とする。 | 県芸術文化祭本展の開催時期が毎年異なるため、他の博物館事業等と重なってしまい、長めの開催期間の確保が難しい。今後も期間の検討が必要と考えている。 | 恩納村博物館での開催期間を延ばせるよう継続して調整を行っている。 また、村内で撮影された作品や幅広いテーマの作品を借用した。 | H26年1/7～13開催(7日間)。期間中来場者 216名(前年度 6 日間、217名)。66 点の写真作品を借用し、展示を行った。 | 県芸術文化祭本展の開催時期が毎年異なるため、他の事業等との調整が必要となる。 開催期間を延長できるように継続して要望していく。 | B | ①現状の内容で継続 |
| サンセットコンサート | 博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。 | 村内出身者などの人材の活用、幅広いジャンルでの開催を検討。 | 村内出身者のグループや個人に出演を依頼したほか、専門的な演奏技術を持つ方にも出演を依頼した。また、演奏曲にも村出身作曲家・渡久地政信氏の作品を取り入れるなど、人材の活用と内容の充実を図った。 | H26年1月18日(土)に開催。来場者 112 名(前年度 60 名)。 博物館のホールを利用し、コンサートを実施。会場で実施したアンケートでも好評を得ていた。 | アンケートでも好評を得ているので、村内出身者などの人材の発掘、幅広いジャンルでの開催を検討していきたい。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|--------------------|---|--|---|---|---|----|----------------------------------|
| 博物館講座 「沖縄闘牛の魅力」 | 博物館主催の講座を通して、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。 | 今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。 | 県内でも熱心な愛好家が多い沖縄闘牛の魅力について、村から石川多目的ドームの闘牛場が近いという地理的な特色もあるため、闘牛写真家の展示会受入に合わせて、企画した。 | H25年6月16日に開催。参加者10名。 闘牛アナウンサー、闘牛飼育者、闘牛ファンのそれぞれの視点から沖縄の闘牛の魅力について語っていただいた。 | 今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。 | B | ②事業規模を拡大又は縮小して継続 (テーマを変更して継続) |
| 博物館講座 「ティール作り」 | 博物館主催の講座を通して、村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。 | 今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。 | 企画展「恩納村の海の恵み」の開催期間中に関連催事として開催。 海での活動で利用された民具「ティール」作りを通して、参加者にその製作技術や使い方などについての理解を深めてもらうことを目的として企画した。 また、この機会に村内で過去に製作していた方で、今後製作の指導を出来そうな方の情報収集や人材発掘も目的とした。 | 平成26年2月8、9日の2日間にわたって開催。参加者は村内の大人に限定して募集し、13名が参加した。講師の指導の下、竹籠を編んでいく一連の工程を実際に参加者に体験してもらい、ティールを完成させた。参加者からは今後も継続的に行って欲しいとの要望もあり非常に好評だった。 | 今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 『恩納村博物館紀要』(第8号)の刊行 | 恩納村に関連する研究及び報告などの情報発信源とする。また、後世に伝えるため、博物館年報と隔年にて作成している。 | 今後も継続し、村や博物館活動に関する調査研究・報告に努める。 | 第8号については、恩納村文化財保護審議員、恩納村誌自然史調査員に原稿の執筆を依頼し、村の自然分野に関する調査・研究成果 | 『恩納村博物館紀要』8号(全42頁)を刊行した。各執筆者には、『恩納村誌』自然編に掲載した調査成果を補足する報告 | 今後も継続し、博物館活動の一環として、調査・研究に取り組む、その成果を刊行物とすることで、 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------------|--|---|---|---|--|----|-----------|
| | | | の公開を図った。 | をしていただいた。 | 情報の公開活用を図る。 | | |
| 歴史ロードを歩こう事業 | 恩納村内に所在する国指定史跡「国頭方西海道」やその一帯に所在する恩納村の財産である文化財を見て、聞いて、触れることで文化財愛護思想の啓発を図った | 引き続き、事業実施に当たっては参加者の安全管理に配慮する。 | 適切な安全管理を目標に声掛けや、道路付近の誘導、歩行時の呼びかけや滑りやすい箇所等に職員を配置した。 | 5月11日に実施。参加予約63名のところ当日雨天のため参加者29名。村内参加者が多く、次回も参加したいという意見が多く寄せられた。 前年度(H24)参加者：49名 | 参加者の安全管理に配慮するとともに案内方法の検討を実施する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 親子文化財めぐり | 親子で文化財めぐりをするにより、歴史や文化財への認識を高め、文化財保護の啓発を図る。 | 参加者の増加に向け、村内各学校及び子ども会、各公民館へ引き続き呼びかけを実施する。 | 村内を対象に一般公募し、各学校や子ども会、公民館、OIST等へ案内及び立て看板を設置、役場HPや村内放送でも募集を呼びかける。 | 3月16日に実施。村内の一般を含めた21名が参加。 村縁の護佐丸に関連する山田城や座喜味城跡など地域の文化財について学習する機会となった。 前年度(H24)参加者：親子16名 | 護佐丸縁の史跡や世界遺産を巡っており、今後親子文化財めぐりのルートについて検討する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 文化財普及事業 | 村内の文化財の周知と普及を図るため文化財普及展示会を実施し、文化財保護の啓発を図る。 | 前年度取り組みなし | | 平成25年度は恩納村より出土した先人たちの道具や食や生活などモノと写真パネル等を用いて展示会を実施。近隣の金武町、宜野座村の協力も得て実施。9月10日～9月29日まで実施。来館者は288名。 | 今後も恩納村の文化財の普及を図るため展示会を継続してできるよう検討する。 | A | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------------------|--|---|---|--|--|----|-----------|
| 恩納村文化財保護審議会 | 村内に所在する文化財の保護と活用について審議会を実施し、村内の文化財保護に努める。 | 村内の文化財の情報収集および指定文化財の増加を目指す。 | 村内の指定文化財の増加を図るため、文化財保護審議委員から意見を聴取し、指定に向けて情報収集を実施した。 | 平成 25 年度は年 2 回の審議会を実施。 審議会では、開発に伴う文化財の保護については、村指定文化財「浜崎御嶽」の現状変更の審議や開発予定地内の文化財視察、平成 25 年度事業報告及び平成 26 年度事業計画の報告等を行った。 | 村内の指定文化財の増加を目指す。無形文化財の指定に向けて情報収集および検討する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 国庫補助事業 恩納村内遺跡発掘調査等 | 国庫補助事業として 4 カ年事業で、村内の埋蔵文化財の分布状況の把握と開発調整に必要な確認調査の実施。 | 開発予定地の継続的な基礎調査を実施し、将来の事業計画時における埋蔵文化財の保護を実施。 | 恩納通信所跡地及び恩納バイパス・恩納南バイパス工事予定地などの大型開発予定地及び各種開発に伴う埋蔵文化財の確認調査を実施。 | 5 月 15 日～3 月 31 日まで実施。恩納通信所跡地等の確認調査を実施。恩納・恩納南バイパス拡幅予定地では、遺跡の有無確認調査を実施。 | 確認された文化財の周知と保護対応について検討する。 | A | ①現状の内容で継続 |
| 自衛隊基地白川分屯地埋蔵文化財調査 | 自衛隊より嘉手納弾薬庫内にある自衛隊基地の工事に伴う埋蔵文化財調査を依頼され、予定地の埋蔵文化財確認調査を実施。 | 前年度取り組みなし | | 調査地は 71,000 m ² で 10 月 18 日～1 月 16 日までの期間で実施。調査の結果、埋蔵文化財は無いことが判明しその旨自衛隊に回答した。 | 基地内の文化財の把握は殆どされていないため、調査依頼があった際には、情報収集に努め文化財の把握と保護に取り組む。 | A | 事業の完了 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-----------------------------|--|-----------|------------|---|-------------------------------|----|-------|
| 前兼久～谷茶区間電線共同溝埋設工事計画に伴う文化財調査 | 北部国道事務所より依頼があり、前兼久地区から谷茶区間までの文化財確認調査を実施。 | 前年度取り組みなし | | 4月1日～3月31日まで実施。調査を実施した結果、文化財は確認されず、その旨事業者へ回答した。 | 今後とも継続して開発や工事に伴う村内の文化財保護に努める。 | A | 事業の完了 |

(6) 学校給食センター所管事業

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|-------------|---|--|---|---|--|----|-----------|
| 栄養教室の開催 | 児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。 | 各学校で給食時間を利用した栄養指導の充実を図る | 食に関する年間指導計画を作成し各学校への周知を図り、各学校で給食時間を利用し栄養指導を行った。 | 子供たちが食に対する関心を持ち、栄養に関する知識を学んだ。 | 各学校で保護者も含めた食育教室を通して、更に栄養指導の充実を図る。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 村産食材の積極的な活用 | 安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進 | 地場産物の年間を通じた安定供給ができるようおんなの駅との連携を図る。「ふれあい給食」が各学校の年間行事として取り組めるよう推進する。 | 日頃の食材調達をおんなの駅と連絡調整を行い、年間を通して、地場産物を利用した。また「ふれあい給食」年間行事として計画した。 | 地場産物を学校給食を通して、子供たちに提供し、食材をつくらせている農家さんとの「ふれあい給食」を実施した。 | 地場産物の年間を通じた安定供給ができるようおんなの駅との連携を図る。「ふれあい給食」が各学校の年間行事として取り組めるよう推進する。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 給食センター見学の推進 | 給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。 | 幼稚園のみでなく小中学校でもセンター見学が実施できるよう推進する。 | 幼稚園児の調理場見学に向けた事前調整と実施。小中学校の行事調整を行った。 | 幼稚園児の調理場見学を実施し、給食に対する関心を高めた。 | 幼稚園のみでなく小中学校でもセンター見学が実施できるよう推進する。夏休みを利用した見学を検討する。 | B | ①現状の内容で継続 |

| 事業項目 | 事業目標及び事業内容 | 前年度の課題 | 課題克服に向けた取組 | 事業の成果 | 今後の課題 | 評価 | 総合判断 |
|--------------|---------------------------------|--|--------------------------------------|---|--|----|-----------|
| 給食費徴収率の向上 | 安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。 | JA 以外の金融機関での口座振替等、納付のチャンネルを増やすことで納付しやすい環境整備。悪質な滞納者に対する強制執行の申し立て。 | JA 以外の金融機関で口座振替を実施し、滞納者に対し、催告書の発送した。 | J A 以外の口座振替を実施した結果、前年度比 8%程度、振替利用者が増えた。 | 口座振替を推奨していくことと、滞納者に対しては、児童手当の天引き制度を推奨していく。 | B | ①現状の内容で継続 |
| 学校給食センター物品購入 | 学校給食を安全かつ衛生的に供給するために給食運搬車を購入する。 | 購入から 14 年を経過した配送車の買い換えのための予算の確保。 | 配送車の買い替えのための予算の確保及び購入。 | 学校給食を安全かつ衛生的に供給するために給食運搬車を購入した。 | | A | 事業の完了 |

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成メンバー及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

| 役職 | 氏名 | 任期 | 備考 |
|------|-------|----------------------------------|--------------|
| 委員長 | 大城勝泰 | 平成 26 年 8 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日 | 元教育委員・元村議会議長 |
| 副委員長 | 仲本政夫 | 平成 26 年 8 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日 | 元教育委員・元中学校教諭 |
| 委員 | 真栄城慶子 | 平成 26 年 8 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日 | 元村子供育成会会長 |

(2) 意見(答申)

当委員会は、教育長の諮問に基づき、教育委員会が平成 25 年度に実施した 85 件の事業について、平成 26 年 8 月 4 日、8 月 19 日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また 8 月 29 日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行い、その結果を答申いたします。

記

① 点検評価報告書について

今回の教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、事業担当者からの聞き取りを行い、事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であるかを確認しました。また、恩納村全体の生涯教育を考え、学校教育、社会教育関係事業について、生涯教育の視点から事務事業の点検及び評価を行いました。6年目ということでこれまで、いくつかの課題も指摘されてきておりますが、点検項目並びに事業内容、取組み結果及び課題についても、わかり易く丁寧にまとめられ、担当者が熱心に取り組んだことが伺えました。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要であると感じました。成果の見えにくいといわれる教育行政について、PDCAサイクルに沿って事業展開ができるよう常に点検や評価を繰り返すことが重要だということが確認できました。

この評価結果の活用につきましては、次年度以降の事業の取組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、取り入れていただきたいと思っております。

② 事務事業の評価について

平成25年度実施の85件の事務事業の教育委員会事務局の自己評価の点検を行いました。取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと思っております。事業内容に対する自己評価等の詳しい説明を課長及び担当職員より聴取し、目標以上の成果が上げられたとするS評価が2件、目標が達成できたとするA評価が29件、目標が概ね達成できたとするB評価が51件、目標の一部しか達成できなかったとするC評価が3件、目標が達成できなかったとするDが0件となっております。昨年度と比較してS評価及びA評価が増えており、B・C・D評価においては減少の傾向にあり、教育委員会職員の努力がうかがえました。しかし、事業の目標数値が掲げられていない事業が一部見受けられ、事業内容を少し検討しなければならない事業も存在しました。また、各事業においての村民への周知方法が不十分であったり、今後の課題から少し逸れた事業内容が存在しており、後年度において事業効果が向上するよう対策を講じていただきたいと思っております。

なお、外部評価委員会で、各委員から多様な意見提言がありましたので、主なものを列記します。

学校教育関係所管事業の職場体験学習事業については、各学校によって取組みの差はあるものの学校独自で事前研修会を開催し、課題であった学校主体での実施をめざし、方向性が見えてきたことや職場体験先の事業所からの評価も高く、充実した事業として評価したいと思っております。

更に、教育相談事業及び就学支援事業に関連し、SSW(スクールソーシャルワーカー)の配置により、各学校での児童生徒における問題行動等に対し、きめ細かい支援が行われており、様々な諸問題への解決に向けた事業として評価をしたいと思っております。

また、一部検討を要する事業は、学力向上推進関係事業における取組みをより充実させるとともに教職員の研修機会を増やし、学力向上に繋がる事業を展開していただきたい。

社会教育関係所管事業の国際交流派遣事業につきましては、参加者募集の周知期間を昨年より早めたが、年々応募者の減少が見られる。しかし、応募動機に向上心が高い生徒からの応募が増加しており、中学生においては、村学力向上推進実践報告会における感想発表も行われております。更には、昨年度の課題であったアジア圏内との交流も視野に入れた準備も行われ、総合的に成果が見られている事業として評価したいと思っております。

また、文化情報センター準備室業務については、次年度開館に向けての準備がスムーズに行われており、他市町村における広域貸出サービスの伸び率も順調に伸びております。村内の読書推進に大きな役割を果たしている事業として評価をしたいと思っております。

社会体育関係所管事業の各種社会体育事業の充実(壮年ソフトボール)については、昨年度の課題であったスタッフ不足を解消するため、参加チームからの大会

運営への協力(審判員)で、スムーズな事業運営が行われ、参加チーム数も昨年と同様18チームあり、充実した事業として評価をしたいと思います。

学力向上推進委員会事業の地域学習塾支援事業については、村内の各自治会で、実施されており、昨年度の課題であった運営方法が共通理解されており、昨年度より参加者が増加したことや夏休み期間中の過ごし方についても好影響している事業として評価したいと思います。ただし、実施が行えない自治会への人的支援等も検討し、今後の課題として取り組んでいただきたい。

博物館所管事業については、博物館講座の「ティール作り」で大きな成果が見られ、参加者からは継続的に開催してほしいとの声もあり、高く評価をしたいと思います。

学校給食センター所管事業の給食費徴収率の向上事業については、口座振替可能な金融機関の拡大が行われ、各保護者からの口座振替申込者が増加し、徴収率が著しく改善された。今年度においては、その他の事業においても充実した事業として評価したいと思います。

③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の意見がどの程度即効性をもって反映されているか疑問視されますが、事業終了後に行う総合評価だけではなく、事業途中で行う形成的評価を取り入れることにより、現在進行中の事業であっても途中で区切りをつけて評価し、より実効性のある点検及び評価とするためにも一度立ち止まった点検も必要ではないかと思えます。更には、各事業において数値的目標設定を行い、今後の評価に反映させていただきたいと思えます。

事務事業の点検及び評価を行うことにより、成果を検証するとともに、今後の課題を確認し、次年度はその課題解決を事業目標に掲げ解決に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことが、PDCAサイクルの基本となり、効率的な事業推進につながります。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、高い事業目標を掲げ、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村の更なる教育振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

④ むすびに

教育委員会事業における事務事業点検評価は、6回目の報告書となります。同点検及び評価システムについては、各担当者に十分に理解・浸透してきました。今後ともなお一層村民参加への周知方法及び事業内容を充実させ、更に、よりわかり易い内容になるよう検討しながら、各事業実施の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思えます。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善やより効果的な事務事業の実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成26年9月

恩納村教育委員会